

きのくにコミュニティスクールの実態と 市町村教育委員会 の意識に関する調査の結果

【質問 3】 コミュニティ・スクールの推進に向け、どのような取組を展開していますか。

【回答】

- ・市町独自の研修会の開催（ESD やカリキュラム・マネジメントについて、地域学校協働活動との連携について等課題に応じた研修）
 - ・域内の学校運営協議会の合同研修会や、学校運営協議会会長からなる連絡協議会の開催
 - ・校長会、教頭会における指導・助言
 - ・リーフレットや CS だよりを活用した周知活動
 - ・ボランティア登録者、コーディネーターの拡充
 - ・コミュニティ・スクール推進員等の配置
 - ・学校運営協議会への指導主事等の出席
- など

【質問 4】 コミュニティ・スクールの取組の中で、特に成果をあげたことを 1 つお答えください。

【回答】

- ・学校の教育活動が豊かになったこと
 - ・学校の特色を出せるようになったこと
 - ・教員の業務軽減
 - ・ボランティアが増えたこと
 - ・見守りボランティアの発足と路面表示の改善
 - ・地域資源や地域人材の活用の増加
 - ・地域と学校の連携がこれまでより進んだこと
- など

【質問 5】 今後、コミュニティ・スクールの仕組みを活用してどのようなことに取り組んでみたいと考えていますか。

【回答】

- ・中学校部活動の地域移行
 - ・中学校の統合
 - ・町全体における生涯学習
 - ・園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の校種間連携
 - ・地域学校協働活動の充実
 - ・家庭教育支援
 - ・学校の教育活動が充実するような取組（ふるさと学習、ESD、SDG s、地域の伝統・産業に目を向けた取組等）
 - ・防災への取組
- など

【質問7】コミュニティ・スクールの取組において何が課題だと考えていますか。

【回答】

- ・コミュニティ・スクールの取組の意義や活動について教職員、地域全体に周知理解を図ること
 - ・子供の育ちや社会教育に関わる各団体の横の連携（ネットワーク化）
 - ・「コミュニティ・スクール」という言葉の認知度の低さ
 - ・人材確保（学校運営協議会委員、コミュニティ・スクール推進員、地域学校協働活動に参加してくれる人、若年層の参加等）
 - ・制度が形骸化していること
 - ・行政の業務負担感
- など

【きのくにコミュニティスクール推進協議会における意見】

- 第1回の学校運営協議会までに、校長会の場やCS推進員等が管内の学校を訪問することで、コミュニティ・スクールの意義や市町村が目指す目標等を伝えることが必要である。
- 市町村教育委員会が小・中学校へ出向き、学校が抱える課題や悩みについて丁寧に話を聞きながら一緒に目指す方向へ進んでいけるような支援が必要である。
- 共育コミュニティからコミュニティ・スクールへ枠組みが変わるが、関係各課のより緊密な連携が必要となる。
- きのくにコミュニティスクールリーフレットを活用し、教職員、学校運営協議会委員、各家庭に配布する等、地域住民にきのくにコミュニティスクールについて知ってもらうための取組をしてほしい。
- 教育委員会が主体となって、きのくにコミュニティスクールを進める具体的な手法を組み込んでいくことが大事である。